

## 山口大学医学部附属病院で診療を受けられる皆様へ

当院では、以下の研究を実施しておりますのでお知らせいたします。

また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、以下の問合せ先までお申出ください。

その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

① 研究課題名	間質性肺炎の3次元CT画像定量解析支援システム（QZIP-ILD）の有用性評価			
② 実施予定期間	2024年7月24日から2027年3月31日			
③ 対象患者	④の対象期間中に当院で胸部単純CTを受けられた呼吸器・感染症内科を受診された患者さん			
④ 対象期間	2017年1月1日から2024年6月30日			
⑤ 研究機関の名称	別添参照			
⑥ 対象診療科	呼吸器・感染症内科			
⑦ 研究責任者	氏名	國弘佳枝	所属	放射線科
⑧ 使用する情報等	① CT画像データ ② 臨床情報：患者背景（年齢、性別、身長、体重、喫煙歴、既往歴、粉塵吸入歴、間質性肺炎の治療歴）、診断名、呼吸機能検査結果、血液検査データ(CRP, KL-6)			
⑨ 研究の概要	<p>抗線維化薬が臨床に導入されてから、間質性肺炎の治療は大きく変化しました。特に、2021年に本邦でも抗線維化薬の適応が特発性肺線維症(IPF)から進行性の線維化を伴う間質性肺疾患(PF-ILD)全般に拡大されたことで、治療法をもとに疾患を大まかに捉える考え方が、現在の間質性肺炎診療の基本となっています。抗線維化薬は、「疾患が進行している」ということが適応を決める大きな要素であり、画像所見で疾患の進行を正しく評価することが重要です。進行の評価には、画像での病変の程度を定量的に評価することが必要と考えられますが、現在市販されている定量評価ソフトはなく、日常臨床では定量評価は行われていません。</p> <p>本研究の目的は、ザイオソフト株式会社と共同で開発された間質性肺炎のCT画像における病変の定量評価システムQZIP-ILDが、間質性肺疾患に見られる異常所見の領域に対して臨床上意義のある精度で病変領域の識別ができることを評価することです。</p> <p>患者さんのCT画像データは匿名化され、提供先の研究機関（神奈川県立循環器呼吸器病センター、東京女子医科大学、杏林大学、東京慈恵会医科大学、虎の門病院、横浜市立大学附属病院、横浜市立大学附属市民総合医療センター、癌研有明病院、ザイオソフト株式会社）に提供されます。施設間のデータの受け渡しには、マイクロソフト社が運営するクラウドサー</p>			

	ビス（サービス名：SharePoint、サーバの所在国：日本）を利用します。			
⑩ 実施許可	研究実施許可日	2026年4月6日		
⑪ 研究計画書等の閲覧等	研究計画書及び研究の方法に関する資料を他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で入手又は閲覧できます。詳細な方法に関しては以下の問い合わせ先にご連絡ください。			
⑫ 結果の公表	学会や論文等で公表します。			
⑬ 個人情報の保護	結果を公表する場合、個人が特定されることはありません。			
⑭ 知的財産権	研究グループに帰属します。			
⑮ 研究の資金源	多施設共同研究グループの研究費（ザイオソフト株式会社の資金）			
⑯ 利益相反	当該研究で使用する医療機器に関連する企業（ザイオソフト株式会社）から寄付金の受け入れがあります。			
⑰ 問い合わせ先・相談窓口	山口大学医学部附属病院 放射線科 担当者：國弘佳枝			
	電話	0836-22-2285	FAX	0836-22-2285

別添

研究組織

研究代表者：

神奈川県立循環器呼吸器病センター

岩澤 多恵

研究参加施設と研究責任者

九州大学

藪内 英剛

琉球大学

土屋 奈々絵

山口大学

國弘 佳枝

三重大学

市川 泰崇

東京女子医科大学

坂井 修二

杏林大学

栗原 泰之

東京慈恵会医科大学

渡邊 貴史

虎の門病院

負門 克典

横浜市立大学附属病院

安田 尚史

横浜市立大学附属市民総合医療センター

青木 亮

癌研有明病院

佐藤 嘉尚

産業医科大学

青木 隆敏

ザイオソフト株式会社

茅野 秀介